

30周年記念事業

- 『海外難民視力支援活動 30周年記念誌』の編集
- 「30周年記念感謝の集い」を開催（8月27日）
- UNHCRジュネーブ本部に10万ドルを寄付
- 「記念Tシャツ」製作：UNHCRアゼルバイジャン事務所スタッフと通訳、社員全員にプレゼント
- 「特製大型メガネクロス」製作



7月9日ゴランボイでの作業を終え、30周年記念Tシャツを着て記念撮影



『海外難民視力支援活動 30周年記念誌』

ドクター金井と 富士メガネの社員の皆様

視力の贈り物は、難民やその家族の生活を大きく改善するものです。子どもたちは学校に通い、読み書きを学ぶようになりました。その両親は新しい技術を習得したり、仕事を得て家族を支えることが可能になりました。周囲に頼りがちな年長者も、より自立し、地域社会の一員として積極的に活動できるようになりました。（一部抜粋）

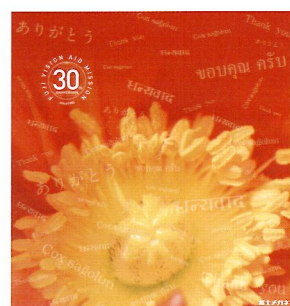
国連難民高等弁務官
アントニオ・グテーレス 様

「富士メガネ」は 私たち日本人の誇りです

「富士メガネ」さんは、『日本でいちばん大切にしたい会社2』に書かせていただきました。その理由は、社員の幸せや社員の成長を重視した経営、さらには徹底した顧客志向の経営もそうですが、より以上に私を感動・感嘆・感銘させた経営は、世界の弱き人々・困っている人々・助けを求めている人々に対する、メガネを通じた全社的な人道的活動です。（一部抜粋）

法政大学大学院政策創造研究科 教授
『日本でいちばん大切にしたい会社』 著者
坂本 光司 様

アントニオ・グテーレス国連難民高等弁務官、坂本光司法政大学大学院教授など、たくさんの方々にメッセージをいただきました。



特製大型メガネクロス

ケニアへの支援

UNHCRケニア事務所（ナイロビ）の要請を受け、ケニアのダダーブにあるソマリア難民キャンプ（約46万人が保護されている）への視力支援のため、先方の指定した度数の眼鏡（+1.00D、+1.50D、+2.00D、+2.50D、+3.00D）2,000組と、お客様からいただいた使用済みメガネ2,000組の寄贈手続き中です。

終わりに

今年で8回目を迎えたアゼルバイジャンへのミッションは、総てのスケジュールを予定通り終了し、チームの皆さんは無事日本へ帰国することが出来ました。今回も沢山の皆さんの助けを借りながら、大きなトラブルも無く何とか任務を遂行することが出来ました。特に、パートナーとしてのUNHCRアゼルバイジャン事務所の総力を挙げた完璧と思われる協力無くしては到底実現出来ない活動でした。また、アゼルバイジャン政府の公式支援のお蔭で民間企業の活動としては異例の便宜を受け、入国から出国まで安心して活動することが出来ました。また本年は「ミッション30周年」を迎えましたが、UNHCR事務所とアゼルバイジャン政府からこれまでの活動に対し過分のご評価をいただき、滞在中私共の活動が全国ネットのテレビや新聞など広域メディアを通じて報じられました。これ程恵まれたミッションは無いのではないかと感謝しています。メガネの仕事を通じたこの様な海外での人道支援活動に30年間に亘って携わることが出来ました。この様な機会を与えられ大変幸せに思っています。折しも、イスラム諸国内で発生している政治的動揺や、イランとイスラエルとの軍事的緊張の悪化、欧州諸国の債務危機問題などでミッションの順調な実施が危惧されましたが、全スケジュールを無事終わることが出来、今はホッと胸をなで降ろしています。今年もメンバーの皆さんは検査終了後、沢山の人から手を硬く握り締められたり、息子を抱きしめる母親のような抱擁やキスを受けたりしました。平和な国、日本ではパンダの赤ちゃんが死んだというニュースが新聞、テレビで報道され大騒ぎしているという。日本との余りの違いにまったく別世界で起きた出来事のようにさえ感じています。殆ど休みの無い連日のハードなスケジュールを振り返り、メンバーの皆さんの目覚しい活躍に心から感謝申し上げます。ご家族の皆さんの心配はとても大きかったようです。本当にご苦勞様でした。ミッションにご協力いただいた関係の総ての皆様へ心からお礼申し上げます。